

建物／集落に関する文献資料からみた能登町黒川地区の地域特性の解明と現在的活用 (能登町黒川地区の文化遺産の総合的な活用・活性化促進に関する調査研究)

指導教員 石川工業高等専門学校 建築学科 准教授 村田一也

参加学生 齋藤彩乃・笹島克弥・熊野里穂・高山桃子・平野凌丞・中江宥斗・布袋和樹・
小竹凱・源入幹太・越村流威・杉本菜波・田中優衣・津田洋人・堀井未有
(石川工業高等専門学校)

1. 調査研究成果要約

黒川地区の地域調査の展開として、柳田地区集落調査の手法を確立し、黒川地区と他地区とを比較対照するための準備ができた。柳田地区の祭礼調査として、キリコマツリを主体としている祭礼をピックアップした。キリコマツリとヨバレの詳細調査のためにバンバのある神社と草葺民家がある地区を明らかにした。中谷家住宅について、実測調査により屋敷地内の配置図兼平面図が完成し、類例との比較ができるようになった。

2. 調査研究の目的

黒川地区の地域調査と中谷家住宅の建物調査を進めるために、地域調査では柳田地区に調査範囲を拡げること、建物調査では奥能登の文化財民家について調査することが必要になった。これらについて、Ⅰ.「柳田地区集落調査の手法の確立」、Ⅱ.「柳田地区祭礼調査」、Ⅲ.「中谷家住宅の変遷の解明」の3点について活動した。

- Ⅰ. 柳田地区文献調査による知見から23字をデータ化するための集落調査の手法を確立する。
- Ⅱ. 柳田地区の祭礼について文献調査し、特にキリコマツリとヨバレの関係について調査した。
- Ⅲ. 中谷家住宅建物の変遷の解明のために、奥能登の文化財建物について文献調査し、視察した。

3. 調査研究の内容

5月13日に顔合わせを兼ねた里山ヨバレ(田植え体験)への参加、8月22～23日に一泊二日で現地での事前調査・打合せをおこなった。また、9月1～3日、11月25日、12月3日、12月9～10日の4回、実地調査をした。5月13日の参加学生は、高山、熊野、平野、小竹、越村であった。8月22～23日の参加学生は高山、熊野であった。9月1～3日の参加学生は齋藤、笹島、高山、熊野、中江、平野、布袋、津田、越村であった。11月25日の参加学生は、高山、熊野、平野であった。12月3日の参加学生は、齋藤、高山、熊野、平野、布袋、源入、田中、津田、堀井であった。12月9～10日の参加学生は、齋藤、高山、熊野、中江、平野、布袋、小竹、源入、杉本、田中、津田、堀井であった。

Ⅰ. 「柳田地区集落調査の手法の確立」

柳田村に関する文献調査

文献調査として『柳田村史』『柳田村の集落誌』から、柳田地区の建物の特徴とその配置についてみた。柳田地区の建物の特徴については母屋、厩、蔵の建物種類別に記述を抽出した。柳田地区の建物配置については地理的状況や敷地状況、各建物の配置関係について抽出した。

黒川地区を事例とした地区調査

地区調査として、実地調査とアンケート調査から黒川地区の建物の特徴とその配置についてみた。実地調査では、建物の特徴とその配置について目視調査をおこなった。アンケート調査では、建物と生活について聴取し、日常の建物の使用用途や祭礼時の建物の使い方をアンケート内容とした。

柳田地区の調査範囲

能登町柳田地区を対象として調査・分析し、23字における地形と建物配置の関係性をみるためのデータベースを作成した。河川による類型、建物配置による類型をまとめた。

Ⅱ. 「柳田地区祭礼調査」

輪島キリコ会館の視察 [写真1]

9月1日に、輪島キリコ会館で能登のキリコマツリの歴史や規模についての話を聞き、展示されているキリコを視察した。

神社祭礼視察 [写真2] [写真3]

黒川地区で、9月2日の朝に、キリコ起こしに参加した。9月2日の晩に、ヨバレと黒川地区の白山神社にてとりおこなわれた宵祭りに参加した。祭礼では地域の方々とともに学生も参加することによって、キリコを動かし、白山神社まで移動した。9月3日の午前に、白山神社にて本祭りを視察した。

柳田地区の祭礼

文献調査で柳田地区の年中行事について、行事がとりおこなわれる季節、行事の名称、日程、内容を表にまとめ、行事の名称と内容から柳田地区の祭礼をまとめた。また、現在柳田地区でとりおこなわれている祭礼について調査し、祭礼がとりおこなわれている字名、祭礼の名称、日程、内容をまとめた。

柳田地区の神社

資料調査で柳田地区の全神社の字名、神社名、バンバの有無を抽出し、まとめた。キリコマツリの際に使用されるバンバがある神社は5社あり、字名、神社名、神主、所蔵物、きりこ祭の日程、キリコ・神輿数、きりこ祭の開始・終了時間をまとめた。

Ⅲ. 「中谷家住宅の変遷の解明」

中谷家住宅外構の調査 [写真4]

あらかじめ中谷家住宅屋敷地内の測量写真をもとに屋敷地内の石を描画し、写真ではわからなかったところを実測調査し修正した。9月1～3日に石の寸法と位置を計測した。また、9月23日に測定箇所への補足調査をした。

中谷家住宅の軒の出の実測調査 [写真5]

12月3日に、屋根伏せ図と2階平面図の下屋を描くために野帳をつくり、計測をした。12月9日には計測箇所の補足調査をした。



[写真1] 輪島キリコ会館



[写真2] キリコ起こしの様子



[写真3] 本祭り視察の様子



[写真4] 外構の実測調査の様子



[写真5] 軒の出の実測調査の様子

中谷家住宅 2 階の実測調査

12 月 3 日に、2 階平面図を描くために奉公人部屋と蔵の 2 階の柱、建具、畳、階段部分の吹き抜けを計測した。

中谷家住宅の図面の描画

実測値を用いて、中谷家住宅の外構を含む配置図兼平面図、2 階平面図、屋根伏せ図を描画し、それらの図面が完成した。

奥能登の文化財建物の文献調査

『石川県の民家 民家緊急調査報告書』から、奥能登の文化財建物である「重要文化財 黒丸家住宅」、「重要文化財 時国家住宅」、「重要文化財 下時国家住宅」、「石川県指定有形文化財 旧平家住宅」の 4 つの間取について調査した。

「重要文化財 上時国家住宅」の視察〔写真 6〕

12 月 9 日に国指定の重要文化財である上時国家住宅を視察し、間取や庭についての知見を得た。

「名勝 平家庭園」の視察〔写真 7〕

12 月 10 日に県指定の文化財である平家庭園を視察し、庭についての知見を得た。



〔写真 6〕時国家住宅視察の様子



〔写真 7〕平家庭園

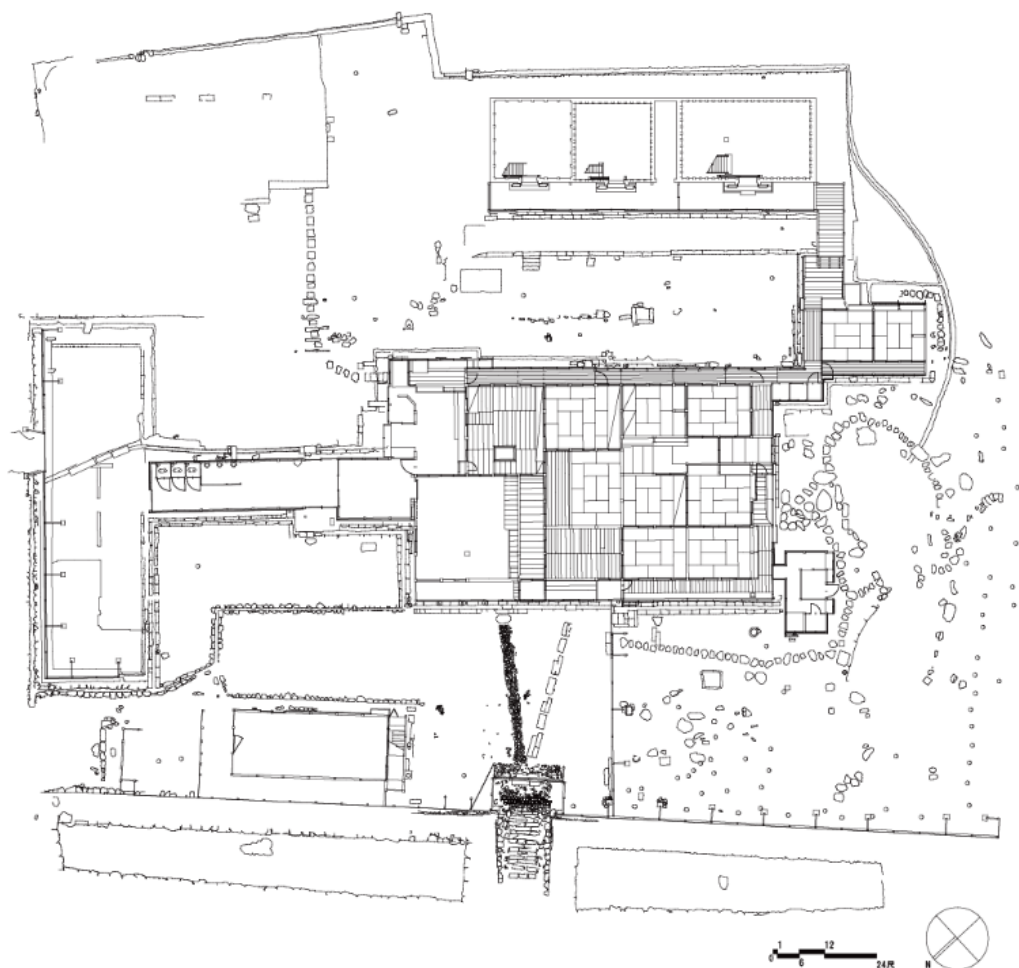
4. 調査研究の成果

調査研究の目的Ⅰ～Ⅲについて、それぞれの成果は以下である。

Ⅰ．「柳田地区集落調査の手法の確立」として、今後柳田地区の 23 字を調査するための指標となる文献調査と実地調査、アンケート調査の手順、必要資料、注意事項等がまとまった。また、今後調査を進める際の調査範囲として 23 字を類型化した。地形と建物配置による類型化から柳田地区の 23 字を 7 つに分類することができた。

Ⅱ．「柳田地区祭礼調査」として、黒川地区のキリコマツリのタイムテーブルができた。また、柳田地区の祭礼についてキリコマツリを主体としている祭礼を抽出した。キリコマツリを詳細に調査するために柳田地区の神社の調査を進め、キリコマツリと関係の深いバンバがある神社が黒川地区の白山神社を含む 5 社であることがわかった。実地調査では 5 社のバンバを確認した。ヨバレについては、ヨバレの際には人が出入りしやすく、外からみえる部屋である玄関側の座敷を使用していることが確認できた。ヨバレと民家の間取には関連がありそうである。そこから『石川県の民家 民家緊急調査報告書』に記載されている草葺民家を抽出し、この資料にある民家から柳田地区の草葺民家 8 軒が抽出でき、実地調査ではその内 6 軒を確認することができた。

Ⅲ．「中谷家住宅の変遷の解明」として、これを分析するための、外構を含めた平面図と二階平面図と屋根伏せ図が完成した。中谷家住宅の間取と屋敷構えについて、奥能登の文化財民家と比較できるようになった。また、庭については、中谷家住宅と「名勝 時国氏庭園」、「名勝 平家庭園」とが比較できるようになった。



〔図1〕中谷家住宅屋敷地内平面図

5. 来年度の調査研究計画

I. 「柳田地区の集落調査の手法の確立」で各地区を調査していくための調査手法ができている。この調査手法をもってII. 「柳田地区祭礼調査」から、黒川地区と同じようにバンバがある地区として5地区が調査対象としてあげられる。特にバンバがある神社と草葺民家が現存している、桐畑地区と久田地区の2地区についての調査をしたい。これらと黒川地区を比較対照する。

III. 「中谷家住宅の変遷の解明」の調査により、比較するための資料が揃ったことから、中谷家住宅の変遷を明らかにする。

6. 調査研究に対する地域からの評価

村田ゼミによる調査研究活動も4年目となりました。

4年間の活動で地域でも認知され、研究課題の中谷家の家屋調査も完成まであと少しとなりました。交流活動も定着して、今年は男子学生が多く秋の祭礼では、キリコの担ぎ手として活躍しました。3年目となるハザ干し米づくりでは、東京の丸の内朝大学里山チーム（里山ヨバレ隊）と田植えと稲刈りにも参加し稲の縛り方などを教わりながら米作りを体験し地元に溶け込んでいます。

また、今年もゼミのOBが祭礼の時に来て頂き、卒業してからの地域との関係が続くことは嬉しくありがたいことと考えています。

これからは、4年間の活動の経験を活かして地域の課題に対して、積極的な意見やアイデアを期待したいと思います。